

古墳時代の陵墓からみた倭国の成立



大阪にある世界遺産「百舌鳥・古市古墳群」には、仁徳天皇陵古墳などの巨大な前方後円墳が数多く築かれています。しかしそのほとんどが陵墓として管理されているために、十分な調査がなされていないとの指摘があります。今回は陵墓の調査に従事してきた経験から、どこまで調査で分かっているのか、そして倭国が成立してくる時代について、今の考古学ではどのように考えることができるのかについてお話していきたいと思います。



講師

徳田 誠志氏

関西大学客員教授

1962年岐阜県生まれ。1989年3月関西大学大学院文学研究科博士課程修了、博士（文学）。在学中、明日香村キトラ古墳の測量調査に参加。大学院修了後、日本学術振興会特別研究員を経て、1990年4月宮内庁書陵部陵墓課入庁。在職中は古墳時代の陵墓の調査を担当し、特に百舌鳥・古市古墳群にある大形陵墓の調査・研究に従事。2022年3月陵墓調査官にて定年退官し、同年4月から関西大学客員教授に就任。主な共著書として『続 明日香村史』上巻、『古墳時代研究の現状と課題』、『事典 墓の考古学』、『畿内の古代学』第2巻などがある。

2025年 1 月 26 日 【日】

時 間

14:00～15:30
(開場13:30)

会 場

千里山キャンパス
第2学舎B棟4階401教室
(大阪府吹田市山手町3-3-35)

参加費

無料

対象者

どなたでもご参加いただけます

定 員

300名 (要事前申込)

申 込

右記二次元コードより必要事項をご入力の上、
1月20日(月)までにお申し込みください。

お問合せ先

社会連携部地域連携センター

TEL:06-6368-1032 (平日9時～17時)

MAIL:chiiki-mm@ml.kandai.jp

HP:https://www.kansai-u.ac.jp/renkei/chiiki/

主催：関西大学 社会連携部 地域連携センター